



第2章 これまでの生涯学習推進 の成果と課題

- 1 第二次生涯学習推進計画の成果
- 2 調査結果等から得られた現状と課題



全国連携・自然体験事業





第 2 章 これまでの生涯学習推進の成果と課題

本章では、第 1 章で述べた我が国における生涯学習を取り巻く動向等を踏まえつつ、第二次生涯学習推進計画で掲げた施策の成果を中心に、生涯学習分野の成果を整理します。そして、区民の生涯学習に関する意識等を把握するために実施した荒川区政世論調査及び荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の結果を基に、今後の課題を示します。

1 第二次生涯学習推進計画の成果

平成 20（2008）年 3 月に策定した第二次生涯学習推進計画では、区民の主体的な生涯学習を支援するための目標として、5 つの施策の柱を掲げました。

ここでは、以下の第二次生涯学習推進計画の施策の柱ごとに、これまでの主な成果について整理します。

< 施策の柱 >

学習情報の発信と相談体制の確立

多様な学習機会の充実

生涯学習関連施設の整備・拡充

学習成果を地域に活かす取組

推進のためのしくみづくり



施策の柱 学習情報の発信と相談体制の確立

【成果】

区民が主体的に学習活動を進められるよう、多様な媒体による情報提供・情報発信の充実を図るとともに、気軽に相談できる場を整備しました。

○情報提供手段の整備及び内容の充実

- ・区で実施する生涯学習関連事業を、実施日やジャンル、対象などにより検索することのできる「生涯学習・スポーツポータルサイト『あらかわまなびプラザ』」の開設
- ・ツイッター・メールマガジン・フェイスブック等での各種講座やイベント等の情報発信の充実
- ・講座情報などを総合的に整理した「生涯学習ガイドブック」の発行
- ・区内の生涯学習関係団体の活動情報を網羅した「団体・サークル名簿」の発行

○相談体制の確立

- ・生涯学習課をはじめとする区役所窓口での学習活動のきっかけづくりや活動の活性化等の支援
- ・「荒川コミュニティカレッジ」や「地域活動サロンふらっと・フラット」における学習活動や地域活動に関する相談や支援の開始

【今後の方向性】

- ・スマートフォンやタブレット端末等新たな情報通信機器の進歩、普及に対応した情報提供を進める必要があります。
- ・今後も、高齢者や障がい者をはじめ誰もが利用しやすい情報提供手段や相談体制を充実する必要があります。



施策の柱 多様な学習機会の充実

【成果】

区民の多様なニーズに応える学習機会の充実を図るとともに、地域の課題に関する学習機会の拡充を図りました。さらに、区民の主体的な学習活動についても積極的に支援しました。

○区民のニーズや様々な課題解決に向けた学習機会の充実

- ・生涯学習センターにおける、芸術・文化・歴史などをテーマとした「区民カレッジ」や、パソコンの操作方法等を教える「IT講習会」の実施
- ・町屋文化センターにおける荒川区文化団体と連携した文化総合講座の実施、また気軽にコンサート等を体験できる「なないろひろば」等の実施
- ・子どもの自然体験事業を推進するためのキャンプ等の実施
- ・清里高原ロッジ・少年自然の家を活用した「区民ハイキングIN清里」「ランニング合宿IN清里」の実施
- ・子育て中の保護者向けにしつけや親子コミュニケーションなどについての学習機会を提供する家庭教育学級の充実
- ・荒川区文化団体連盟との連携による、次世代への文化の継承を目的とした「子ども文化体験フェスタ」の開催

○学習機会を拡充するための支援・環境整備

- ・区民の自主的な講座等の運営を支援する「親育ち支援事業」の創設
- ・「俳句のまちあらかわ」を推進するための庁内PTによる施策の連携と、荒川区俳句連盟等と連携・協力した、俳句文化の醸成と学習機会の充実
- ・生涯学習センターにおける、パソコンの自主学習ができるIT自習室の実施及びパソコン学習団体への支援
- ・心身障がい者に対し、自主性・社会性・協調性を養う学習機会を提供する「荒川区心身障がい者青年教室（さくら教室）」の実施
- ・区内在住の外国人等を対象に、日本語や日本の文化を教える日本語教室等の在住外国人支援事業の実施

【今後の方向性】

社会状況の変化に伴う区民ニーズや様々な地域課題の解決に向けて、引き続き学習機会の充実を図る必要があります。



施策の柱 生涯学習関連施設の整備・拡充

【成果】

区民の学習環境におけるハード面の整備を目的に、身近な学びの場の充実を図るとともに、新たな生涯学習の拠点となる施設を開設しました。

○身近な場所の整備・活用

- ・生涯学習センターにおける外壁などの改修や、利便性を向上するためのコンピュータ室のパソコンの更新、大会議室への音響設備導入等の実施
- ・荒川ふるさと文化館における、無形文化財保持者等の伝統工芸品を展示し、伝統工芸技術を体験できる「あらかわ伝統工芸ギャラリー」の開設
- ・空き店舗等を活用した「図書サービスステーション」の開設
- ・サンパール荒川における、大ホール座席の改修、授乳室の新設等の実施

○新たな生涯学習施設の整備

- ・「中央図書館」、「吉村昭記念文学館」、「子どもひろば」の3つの機能を融合させた施設「ゆいの森あらかわ」の開設
- ・乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が学習活動や地域活動を通じて交流し、地域コミュニティの拠点施設となる「ふれあい館」の開設
- ・環境学習の拠点となる「あらかわエコセンター」、「あらかわりサイクルセンター」の開設

【今後の方向性】

区民の学習ニーズに応えるため、新たな施設整備や、既存施設の整備・機能充実といったハード面における更なる充実を図る必要があります。



施策の柱 学習成果を地域に活かす取組

【成果】

地域活動を担う人材を発掘し、仲間とつながりながら学びを深める機会を提供することで、まちづくりに活かす取組を支援しました。

○地域活動を担う新たな人材の発掘、養成の促進

- ・地域への関心を高めるとともに、地域活動の担い手となる人材を育成する「荒川コミュニティカレッジ」の開校
- ・魅力ある地域の歴史や文化を伝えるための担い手を育成する「観光ボランティアガイド養成講座」の実施
- ・高齢者の健康維持や仲間づくりに効果的な、体操を教える担い手を育成する「ころばん体操リーダー養成講座」の実施
- ・環境問題に関心を持つ区民を対象に、地域の環境活動に取り組むリーダーを養成する「環境区民リーダー養成講座」の実施
- ・障がい者スポーツをはじめ、様々なスポーツイベントの場で活躍する人材を育成する「障がい者スポーツサポーター養成講座」の実施

○コーディネート機能の充実及び地域づくりにつながる活動への支援

- ・「荒川コミュニティカレッジ」における、修了生活動団体への地域活動の情報提供や打合せ場所の提供などの支援
- ・子どもの自立や健やかな成長に向けて学習支援や食事の提供等を行う子どもの居場所づくり事業への支援
- ・様々な技能や経験を持った地域の人材に活躍してもらうためのボランティア人材バンクである「社会教育サポーター」事業の実施
- ・子どもを核とした地域での交流活動を支援する「地域教育力向上支援事業（子コミュニティ支援事業）」の実施

【今後の方向性】

地域活動を担う人材の発掘や養成を引き続き進めるとともに、これまでの成果を活かし、区民や地域活動団体の活動が更に広がるよう支援を促進する必要があります。



施策の柱 推進するためのしくみづくり

【成果】

区民の生涯学習に関するニーズ等に対応した第二次推進計画を効果的に推進するため、区はもとより、関係機関との連携を強化するとともに、学習資源を地域でつなぐ仕組みを強化しました。

○庁内の推進体制の整備

- ・生涯学習支援施策を庁内一体となって総合的に推進するための生涯学習推進本部の設置
- ・首長部局と教育委員会の連携を更に強化して、執行体制を強化するとともに、区民を生涯にわたって切れ目なく支援し、生涯学習事業を包括的に推進するための「地域文化スポーツ部」の設置

○関係機関との連携

- ・首都大学東京との、健康や福祉に関する講師の派遣や大学施設の貸出などの連携事業の実施
- ・東京藝術大学との、芸術・文化振興に関わる講座・ワークショップ等の連携事業の実施
- ・生涯学習センターや町屋文化センター、清里高原ロッジなど、生涯学習施設の指定管理者との連携事業の実施
- ・荒川区文化団体連盟や区内少年・青年団体等の区民団体と連携した様々な事業の実施
- ・公益財団法人荒川区自治総合研究所と連携した自然体験等の事業化
- ・福井県ふるさと文学館とゆいの森あらかわ吉村昭記念文学館における「おしどり文学館協定」の締結
- ・住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体の連合体である「幸せリーグ」による全国自治体との連携

【今後の方向性】

今後も区における推進体制をはじめ、関係機関や地域活動団体、他自治体等との連携を更に強化する必要があります。



2 調査結果等から得られた現状と課題

前項で挙げた第二次推進計画の成果や、平成28年度に区民の生涯学習に対する意識を調査するため実施した荒川区政世論調査及び荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査の結果から浮かび上がった区民の生涯学習に関する意識や実態を踏まえ、生涯学習のさらなる推進に向けた、今後の課題について、以下のとおり整理します。

<課題>

身近な学習の場の拡充と情報提供

一人ひとりの学びに対応する機会の提供

学習活動を地域活動に活かす施策の充実

関係機関や全国の自治体などとのさらなる連携強化

身近な学習の場の拡充と情報提供

荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査では、「生涯学習環境の充実」の実感が高い人は、「幸福実感度」が高い傾向にあることがわかります(*1)。すなわち、生涯学習活動を実践する人ほど、幸福度が高くなると言えます。

また、荒川区政世論調査結果によると、生涯学習の活動場所として生涯学習施設などの区立施設を挙げている方が最も割合が高くなっています(*2)。

こうしたことから、区が行ってきた既存施設の改修や新たな施設の整備、インターネット等での施設情報提供の強化などが、区民の学習活動の促進に大きく寄与してきたと言えます。

その一方で、「時間にゆとりがない」「活動したいがきっかけがない」などの声が依然としてある(*3)ことから、今後も、デジタル機器の普及に対応した学習活動に関する情報手段や内容の充実を図るとともに、より身近な学習の場を拡充していく必要があります。

(*1) P64 資料編 2(1)「生涯学習環境の充実」実感別 平均幸福実感度

(*2) P60 資料編 1(1)生涯学習の活動場所

(*3) P63 資料編 1(4)生涯学習活動に参加しなかった理由



一人ひとりの学びに対応する機会の提供

荒川区政世論調査結果では、区民が行う学習活動の方法として、「区が主催する講座・教室・講演会」を挙げている方が最も多いことがわかります(*1)。

また、学習活動を行う目的については、「健康の増進を図りたい」「余暇を楽しみたい」「日常生活を向上させたい」が上位となっています(*2)。

一方、荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査結果では、指標の中で特に「幸福実感」との相関が高いものとして「健康の実感」「心の安らぎ」「子どもの成長の実感」「生活のゆとり」という結果が出ています(*3)。

この2つの調査結果により、区民の学習活動の目的と幸福実感との相関が高いことが分かることから、今後も、「健康づくり」など、区民の多様なニーズや社会状況等を踏まえて学習機会の充実を図る必要があります。

学習活動を地域活動に活かす施策の充実

荒川区民総幸福度(GAH)に関する区民アンケート調査では、「生涯学習環境の充実」と「地域の人との交流の充実」及び「地域への愛着」には相関が高くなっています。また、地域の人との交流が充実している人や地域への愛着を感じている人ほど、幸福度が高くなるという結果が出ています(*4)。

荒川区政世論調査によると、学習活動の方法として、「区が主催する講座等」に比べて、「サークル活動や友人とのグループ活動」、「町会・自治会などでの活動」、「地域の子ども会・子育て支援・PTA等での活動」を挙げている区民の割合が低いという結果が出ています(*1)。

一方、荒川コミュニティカレッジ等を通じて、地域活動の支援を充実してきたことにより、様々な団体やサークルが立ち上がり、学習活動や地域活動が広がっています。こうしたことから、区民の関心が高く、かつ区政の課題でもある「防災・減災」「健康づくり」といった分野などにおいて、地域で活躍する人材を育成する講座を実施することに加え、団体やサークル活動の支援、区民の交流を深める生涯学習事業の実施など、学習活動を地域活動に活かすための施策をこれまで以上に充実していく必要があります。

(*1) P61 資料編 1(2) 生涯学習活動の方法

(*2) P62 資料編 1(3) 生涯学習を行う目的

(*3) P69 資料編 2(6) 幸福度と各指標の関係性(相関係数)

(*4) P65～68 資料編 2(2)「生涯学習環境の充実」実感別「地域の人との交流の充実」実感度
2(3)「地域の人との交流の充実」実感別 平均幸福実感度
2(4)「生涯学習環境の充実」実感別「地域への愛着」実感度
2(5)「地域への愛着」実感別 平均幸福実感度



関係機関や全国の自治体などとのさらなる連携強化

これまで、区では、警察、消防等の関係機関はもとより、町会や商店会といった地域活動団体、区内外の大学や専門学校、さらには「幸せリーグ」や「全国連携プロジェクト」など、全国の自治体との幅広い連携体制を築いて、様々な角度から区民の学習活動にアドバイスや支援を行ってきました。

今後も、区民や団体等からの多様なニーズに対し、より効果的な支援ができるよう、関係機関や自治体、NPO団体等とのネットワーク強化や支援体制の充実を図る必要があります。